



難波津三井店開之図

嘉永二年八月に奉納された大坂本店(呉服店)の店開きの賑いを描いた絵馬額であるが、施主は二人の世話人を含めて、いずれも当時同店に勤めていた手代である。繼松寺が三井家と特別の縁をもたなかったことからみて、松坂出身の手代たちが、世話人と関係のあった同寺に納めたものと思われる。

大坂本店は高麗橋一丁目にあつて、元禄四年の創業にかかる。この絵馬額の図柄は店舗の新築開店の際の店頭風景である。嘉永二年に最も近い時期の新築開店は、大塩乱による焼失後の、天保十一年一月八日に行われており、当時この図柄に似た構図の版画が大坂で版行されているから、恐らくそれらを参考にして描かれたものであろう。なお、店舗の奥に描かれている屋根は、同店の蔵々であり、道路をへだてた手前にみえる屋根の家々は、人形店・紅店・糸店・ベッコウ店・道具店・鏡店・ぬい屋など、同店の別家店舗であつた。

〔額縁記文〕

(上縁)「奉納」

(縦縁)

(右)「大坂三井本店 施主世話人 前田芳三郎 長谷川惣三郎」

(左)「嘉永二己酉歳八月吉日 取次 大平尾村 前田次左衛門 愛宿町 長谷川清兵衛 西町 岡惣兵衛」

(下縁)「西田源四郎 坂部六次郎 浅田常五郎

伊永伝四郎 野口専次郎 中村彦四郎

北村長七 辻 新七 北出儀三郎

山川源三郎 堤 清六

河野七三郎 北川助次郎

」